

# 第 44 回マイコトキシン研究会学術講演会

---

開催日時：平成 9 年 1 月 25 日 (土) 9:30 ~ 17:00

開催場所：東京理科大学薬学部 10 号館 1 階 1011 教室

世話人：東京理科大学薬学部 上野芳夫

〒162 東京都新宿区市ケ谷船河原町 12

TEL: 03-3260-6725 (5069) FAX: 03-3267-1320

E-mail: youeno@ps.kagr.sut.ac.jp

---

## 学術講演プログラム

**研究会総会** (9:30 ~ 10:00)

**一般演題** (10:00 ~ 11:55)

**座長：河合清 (中京女子大学)**

(10:00 ~ 10:15)

1. 海水分離真菌の活性代謝産物に関する研究 (第 1 報) 細胞毒産生株の検索

近藤翠<sup>1</sup>、浜島史泰<sup>1</sup>、奥村弘樹<sup>1</sup>、椿 啓介<sup>2</sup>、  
吉元健司<sup>3</sup>、浪越道夫<sup>3</sup>、上野芳夫<sup>1</sup>

(東京理科大学薬学部<sup>1</sup>、東京農業大学総合研究所<sup>2</sup>、東京水産大学環境海洋学科<sup>3</sup>)

(10:15 ~ 10:30)

2. 新規 Mycophenolic acid とその新規誘導体・新しい活性の発見

松永智行<sup>1</sup>、金允政<sup>1</sup>、小嶋康広<sup>1</sup>、塩見幸雄<sup>1</sup>、  
吉川展司<sup>1</sup>、L. H. Huang<sup>2</sup>、R. W. Stevenson<sup>2</sup>、W. C. Soeller<sup>2</sup>、  
小嶋仲夫<sup>1</sup>

(ファイザー製薬中央研<sup>1</sup>、ファイザーグロトン中央研<sup>2</sup>)

**座長：高橋治男 (千葉県衛生研究所)**

(10:30 ~ 10:45)

4. 中国江南省の食道癌発生地域における食品のマイコトキシン汚染に関する研究

Gao. H.、吉澤宅實 (香川大学農学部生物資源学科)

(10:45~11:00)

**5. 茶園土壌から分離された特徴的なアスペルギルス・フラバス属菌**

伊藤陽子<sup>1</sup>、S. W. Peterson<sup>2</sup>、後藤哲久<sup>3</sup>

(農林水産省野菜茶業試験場<sup>1</sup>、国立農業利用研究センター<sup>2</sup>、農林水産省食品総合研究所<sup>3</sup>)

**休憩** (11:00~11:10)

**座長：川村理 (東京理科大学)**

(11:10~11:25)

**6. Bikaverin による肝ミトコンドリア呼吸阻害作用**

河合清<sup>1</sup>、鈴木智子<sup>1</sup>、北川章<sup>1</sup>、浜崎敬<sup>2</sup>

(中京女子大学健康科学部<sup>1</sup>、鳥取大学農学部<sup>2</sup>)

(11:25~11:40)

**7. アフラトキシン G1 および G2 の酵素的合成**

矢部希見子<sup>1</sup>、中村美紀<sup>1</sup>、浜崎敬<sup>2</sup>

(農林水産省家畜衛生試験場<sup>1</sup>、鳥取大学農学部<sup>2</sup>)

**座長：田中健治 (農水省食品総合研究所)**

(11:40~11:55)

**8. イムノアフィニティーカラム・HPLC 法によるヒト血清、コーヒー及び赤ワイン中のオクラトキシン A の測定**

古屋美穂、川村理、上野芳夫 (東京理科大学薬学部)

**昼食・幹事会** (11:55~13:00)

**特別講演** (13:00~13:40)

**司会：吉澤宅實 (香川大学)**

講演者：Dr. Kerry O'Donnell (National Center for Agricultural Utilization Research, USA)

Molecular systematics and phylogeny of Fusarium

**休憩** (13:40~13:50)

---

# ワークショップ

(13:50~17:00)

司会：上野芳夫<sup>1</sup>、一戸正勝<sup>2</sup>、大坪浩一郎<sup>3</sup>、熊谷進<sup>4</sup>

(東京理科大学薬学部<sup>1</sup>、東京家政大学<sup>2</sup>、小岩保健所<sup>2</sup>、国立予防衛生研究所<sup>4</sup>)

『食品汚染性フザリウム毒 ”ニバレノール” を巡る近年の進歩』

(13:50~13:55)

1. はじめに 上野芳夫 (東京理科大学薬学部)

(13:55~14:10)

2. 赤カビ中毒とニバレノールの発見 辰野高

(14:10~14:25)

3. ニバレノールによる食品汚染 吉澤宅責 (香川大学, 学部)

(14:25~14:40)

4. 食品加工におけるニバレノールの動態 上村尚 (都立衛生研究所)

(14:40~14:55)

5. ニバレノール汚染原因の *Fusarium* 菌 杉浦義紹 (東京理科大学薬学部)

(14:55~15:10)

6. 代謝産物から見た *Fusarium* sp. Fn2B 上野芳夫 (東京理科大学薬学部)

一般討論 (15:10~15:20)

休憩 (15:20~15:35)

(15:35~15:50)

7. アポトーシス誘導から見た細胞毒性発現機構 吉野直人 (東京理科大学薬学部)

(15:50~16:05)

8. ニバレノールによるアポトーシス誘導の超微形態 菅文昌雄 (栃木臨床病理研究所)

(16:05~16:20)

9. ヒト IgA 腎症誘導モデルとしてのニバレノール 日ノ下文彦 (虎ノ門病院腎センター)

(16:20~16:35)

10. 遺伝毒性及び肝発癌における AFB<sub>1</sub> との祖相互作用 関島勝 (三菱化学 BCL)

総合討論 (16:35~17:00)

懇親会 (17:10~19:00)

10号館1階 学生食堂